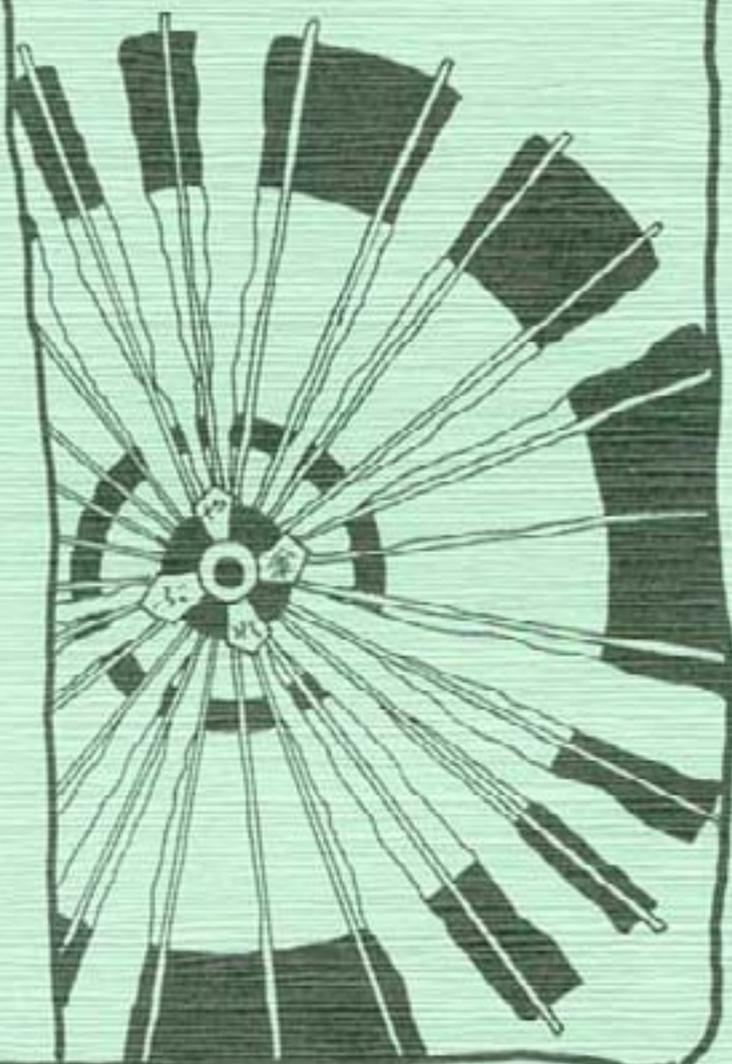


やぶれ傘



五十二号

二〇二〇年二月

つくばひに雨のにぎやか花八ッ手	根橋宏次
日向晴れ大根櫓立ちにけり	廣瀬雅男
朱印所とするべありけり冬の雨	大島英昭
冬コート中に前掛けしてゐたる	きくちきみえ
草絮の浮き漂へるたまり水	藤井美晴
夜咄は孫に睡魔の來たるまで	瀬島酒望
生牡蠣のワインを選ぶドームの灯	丑久保勲
板チョコの銀紙をむく寒さかな	天野美登里
目薬の落ちて冷たくありにけり	安藤久美子
花袋の書ときどき見やる冬座敷	白石正躬
山間の砂防堰堤草もみぢ	渡邊孝彦
飛び石に弾ませてきし籠の玉	國保八江
竹の春水川の杜を風わたり	有賀昌子
夏草の向うに白き捕虫網	松村光典
果敢かな五年連用日記買ふ	高橋均

抄 集 句 選 夫 紀 崎 大 傘 ぶ れ や

敗荷や建築クレーンまた伸びる	時田義勝
墨の香を聞きて墨 <small>ぼく</small> する文化の日	貫井照子
年の市お化け屋敷の絵看板	橋本美代
ふるさとは凍 <small>しばれ</small> る夜と母の声	広瀬 濟
マンシヨンのモデルルームの聖樹かな	松本善一
土器 <small>かわらけ</small> の消えゆく先の薄紅葉	松本正生
子と入りし湯の温きかな夕紅葉	秋山信行
熟柿採る殊の外空青き日に	浅嶋 肇
玉葱を炒める匂ひ一葉忌	岩藤礼子
促促とうどん切る音冬近し	小川 滋
吊るされて魔除けとなりし唐幸子	奥田温子
枝を切る人に人來る小春かな	菊地葉子
茶毘を待つ控の間より鱗雲	久世孝雄
柚子風呂や風呂場の暗さなどを言ひ	忽那みさ子
菊花展砂利踏む音の近づき來	齋藤朋子

蹴 轆 轡

大 崎 紀 夫

蹴 轆 轡 に 日 差 し の と ど く 冬 隣

川 底 の 落 葉 ゆ る り と 裏 返 る

落 葉 踏 み ゆ き 時 を り は 蹴 り ゆ き て

川 岸 の 矢 板 に 冬 の 日 差 か な

山 茶 花 や 巫 女 な ら び ゆ く 砂 利 の 音

からす鳴く田は畑より霜を濃く
干し魚の歯並びに冬日差しかな
暮るるいろ障子あかりに混じりけり

悼・川崎展宏先生

武蔵野の日向に冬の堇かな
冬日向猫の二匹の離れ座す
航跡の瀬戸に交はる青蜜柑
寒柝の八丁堀を行きにけり

生牡蠣

丑久保勲

柿を挽ぐ五段梯子の高さかな
秋蝶を追つて木橋を渡りけり
玻璃越しの楓紅葉やピザの皿
窓小さき煉瓦の壁や蔦紅葉
床の間の軸かけ替へる小春かな
壁板の柱目浮きぬる実南天
高橋たかはしの風に吹かるる冬の暮
短日の舗道に花を置く花屋
時計屋で電池を換へる冬至かな
生牡蠣のワインを選ぶドームの灯

板チョコ

天野美登里

アンテナに止まる鳥や冬夕焼
冬の月空には他に星ひとつ
ホームから線路におりる冬雀
稲架を解く軽トラックを田にいでて
参道は日当たりのなか池普請
小春日の空に鯨の雲浮かぶ
自転車の籠に銀杏の落葉散る
板チョコの銀紙をむく寒さかな
冬芹を洗ふ流れのにごりけり
煎餅のパリンと割るる冬至かな

目 葉

安藤久美子

一 姫と二 太郎ともに七五三
綿虫のひとつふたつと日表へ
枯れ蔓を引きたるときに光りけり
指先のなき手袋に釣りもらふ
冬ざるる丸屋根に立つ風見鶏
靴音の遠ざかりゆく藪柑子
青木の実風の震はす海鼠板
微かなる革手袋の音のして
目葉の落ちて冷たくありにけり
ベネチアイタリア紀行ングラスの店に咳けり

冬座敷

白石正躬

団栗の大ききさ比べ昼深し
蝶の飛ぶ日和の中の冬支度
重之集書写してをれば鴟猛る
川縁に船頭とゐて小春かな
渡わた舟ふね発つ十一月の空の下
大声に鳩の飛び立つ七五三
花袋の書ときどき見やる冬座敷
電柱でカラスの喧嘩十二月
風よけて人を待ちゐる野水仙
部屋伝ひ大根を煮る匂ひ来て

草もみぢ

渡邊孝彦

杭にたも擋網被せる釣師秋の昼
山間の砂防堰堤草もみぢ
雨とぎに花柎を強く打ち
放課後の練習試合冬紅葉
堰をこえきれざる銀杏落葉かな
雨降りや朽葉張り付くバスの床
北風や道に輪止めの人力車
しめ縄の上えに積む銀杏落葉かな
仁王門に煙のながれ落葉焚
舞殿の釘隠し拭く年用意

龍の玉

國保八江

佗助の白暮れ残る屋敷門
大根を洗ふ寺領の井戸端に
山茶花の下枝を揺らす雀かな
飛び石に弾ませてきし龍の玉
禪寺に懸大根と粗朶の束
石庭の石に散りたる紅葉かな
卵塔の並ぶ辺りを雪ぼたる
禅林に薪割る音や十二月
注連飾る夫に手を貸す小屋かな
焼諸屋日暮の路地にしばしゐて

竹の春

有賀昌子

女人禁制の鳥居をくぐり男郎花
坂の上のロシア教会ななかまど
爽やかやタワーから見る五陵郭
蜘蛛の糸枯れ葉いち枚ぶらさげて
川岸のなぞへを二羽の鴨がゆく
つゆ草や野川に雲の流れあり
荷車の立てある庭に柿落葉
竹の春氷川の杜を風わたり
冬日向ビルのあはひにありにけり
指吸うて眠る幼子冬うらら

捕虫網

松村光典

妻の吹くオカリナの音に秋の色
夏草の向うに白き捕虫網
新涼の中野坂上バスを待つ
木犀のかをる道へとペダル漕ぐ
とびら開き木犀匂ふ駅に着く
原宿にぎんなん匂ふ路のあり
秋の蚊に手足喰はれて竹刀振る
稽古して酒酌み交はす夜長かな
潮騒と空と稔りの伊豆の秋
飯桐の紅ふさふさと墓の上

初霜の降りたる朝の通学路
 円楽の逝つてしまへり冬の星
 赤の黄色の連用日記買ふ
 果敢かな五年を聞く冬の駅
 終電の案内を聞く冬の駅
 弔ひへのひと行く路地の夕時雨
 空の欄は少なし古暦

高橋均

動きかざる鳥の枝に冬隣
 もみち散るもみぢ模様にもみぢ道
 屋敷林の櫛大樹の落ち葉ふむ
 両の手に残る香りや柚子湯出づ
 おさなごの手形は窓に雪催ひ
 冬の月さへぎる雲のなかりけり
 大鳥居の謹賀新年詰まる

高柳正幸

◇3~4月の句会案内

月	日	時	句会名	会 場	連 絡 先
3月	1日(月)	PM7:00	ざんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	2日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	大崎紀夫・WEP
	2日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬 島 孟
	5日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	5日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保 勲
	24日(水)	PM6:00	三斗会	WEP俳句教室	丑久保勲・WEP
	27日(土)	AM10:00	楽天会	戸田市中央公民館	廣瀬雅男
	27日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
4月	28日(日)	PM2:00	やぶれ草句会	WEP俳句教室	WEP編集室
	2日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	2日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保 勲
	5日(月)	PM7:00	ざんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	6日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	大崎紀夫・WEP
	6日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬 島 孟
	17日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	18日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	井の頭公園など	丑久保 勲
	24日(土)	AM10:00	楽天会	戸田市中央公民館	廣瀬雅男
	25日(日)	PM2:00	やぶれ草句会	WEP俳句教室	WEP編集室
28日(水)	PM6:00	三斗会	WEP俳句教室	丑久保勲・WEP	

(注) 3月のセニョリータは第4土曜日です。

4月18日(日)の吟行。集合は10時。JR吉祥寺駅公園口改札口。吟行地：
井の頭公園と井の頭自然文化園。句会場：文化園の資料館の集會室。

◎ 連絡先 瀬 島 孟 ☎ 048-862-2757 藤井美晴 ☎ 0422-55-2733
 大島英昭 ☎ 048-592-5041 WEP編集室 ☎ 03-5368-1870
 廣瀬雅男 ☎ 048-443-7522 浦和コミセン ☎ 048-887-5565
 丑久保 勲 ☎ 048-853-3856 WEP俳句教室 WEP編集室へ